

九州のなかま

2009 - 31

平和特集: NO. 8

発行日 : 2010年8月9日(月)

発行者 : 生協労連 九州地連

原水爆禁止世界大会に32カ国が参加!

昨年のプラハの演説で米国のオバマさんの発言もあり、大いに勇気と運動の前進を作りました。開会式の中でも5月核不拡散条約(NPT)再検討会議では日本から1500人ももの参加の報告もありました。



2日目には25の分科会やフォーラム、動く分科会などもありました。生協労働者のつどいでは今年は2400作戦を広島球場にいく歩道でおこないました。真っ赤な帽子に負けにくいくらい真っ赤な顔をした全国のなかまが署名の呼びかけをおこないました。1時間くらいでしたが160筆以上の署名が集まりました。夜の交流会ではNPT参加者のみなさんの報告会があり生協労連でも36人のなかまの参加がありました。「最賃君の扮装で脱水症状になったこと、浴衣で参加、タンバリンでうたい続けた京都の靴脱さんのおかげできつかったけど元気がでたよなど、その日はテロ未遂事件があり、デモが何時間もかかったこと、そんななかで私たちが集めた国際署名を遅くなくても受け取ってくれたカバクチュラン再検討会議議長のこと、その署名(690万)を目にするために厳しい警備にも関わらず広場まで出かけていってくれたことなどの報告がありました。



3日目の閉会総会では平和式典の中で国連事務総長潘基文の挨拶があり。自分の少年時代(朝鮮戦争)の体験でした。この体験から自分の一生を平和のためにささげてきた。より平和な世界を手にする事は可能です。私たちはグランド・ゼロ(爆心地)からグローバルゼロ(大量破壊兵器のない世界)を目指す。核兵器のない世界をともに目指し「核のない平和な世界へと」確実に動きが強まっています。世界大会の参加者は8000人にもものぼりました。九州地連では11人+(沖縄の新保さんの子ども)の参加がありました。(コープかごしま労組: 福丸裕子)

お願い: 平和関連の取組み 他の情報を地連まで FAX: 092-947-9193